

令和3年度 公私幼保合同研究会まとめ 保育カステップアップ研究会



大阪市保育・幼児教育センター

ねらい

教育・保育の振り返り（自己評価）について、記録の仕方、振り返りの視点、次の保育につなげる手立て等を検討し、気づきや学びを、よりよい実践につなげていく。

テーマ

「振り返りを通して、教育・保育の充実につなげよう」

講師

東大阪大学 東大阪大学短期大学部
学長・教授 吉岡 眞知子

参加園所

大阪市立姫島保育所	港乳児保育センター
大阪市立野田保育所	にじのとり保育園
大阪市立鯉江保育所	認定こども園 愛和学園
大阪市立瓜破保育所	北恩加島保育所
大阪市立天下茶屋 保育所	西区南堀江保育園 てのひら

研究の内容・方法

- ・教育・保育の記録を持ち寄り、乳幼児理解に基づいた振り返り（自己評価）の実践を通して、日々の教育・保育の充実につなげる。
- ・記録を書くことで、見えてきた成果や課題について意見交流・討議を行う。

実施一覧

場所：大阪市保育・幼児教育センターもしくはオンラインライブ配信

回数	日時	内容
①	9月1日（水） ※オンライン開催	15：00～17：00 講義：保育の振り返りの必要性－記録をとることの大切さ－
②	10月25日（月）	15：00～17：00 一人ひとり個別の記録を取り、見えてきたことで意見交流
③	11月22日（月）	15：00～17：00 実践記録を持ち寄り、発表、指導講師からの指導助言
④	12月22日（水）	15：00～17：00 実践記録を持ち寄り、グループでの意見交流及び討議
⑤	1月24日（月） ※オンライン開催	14：00～17：00 保育カステップアップ研究会の実践記録をもとに意見交流・討議 （保育カフォローアップ研究会と合同開催）
⑥	2月10日（木） ※オンライン開催	15：00～17：00 研究会を振り返って「学びになったこと」について意見交流
⑦	3月10日（木）	14：00～17：00 研究のまとめ・振り返り （保育カフォローアップ研究会と合同開催）

第1回 (令和3年9月1日) ※オンライン開催

◆講義「保育の振り返りの必要性ー記録をとることの大切さー」

- ・保育士という仕事の魅力、その魅力に応える保育をしているか。
- ・子どもへの関わり方がどうかを問うことが大切。語り合う、話し合う時間をもつ。



【子どもを理解するために】

- ・日々の保育の記録を書く(指導案・日案・日誌)
- ・日誌で一人ひとりの子どもを捉える…つぶやき、目の輝き、どんな行動をしていたか等々
子どもの具体的な姿が観察できているか

意識をして記録を書くことで

- ・子どもをしっかり観察しようとする。
- ・一人ひとりの子どもをしっかり理解する。

記録を基に
保育を振り返る

どのように関われば
よいかが見えてくる

【記録を書くためのポイント】

1. 事実にとって書く。
2. 客観的に観て、子どもの気持ちを理解しようとしているか。
根拠になる姿を書く。子どもをしっかり見ると観察する目ができる。

スキルアップに
つながる自分磨き

【保育の振り返り】指導計画の作成(日案)

1. 昨日までの子ども姿から今日の保育の「ねらい」を考える。
2. 「ねらい」を達成するための「環境構成」を考える。
3. どのような姿で遊ぶ(活動する)かを考え、「予想される活動」に記載する。
4. 予想した子どもの姿から、ねらいを達成するための援助を考える。
▼全く違う姿が現れたら、見えていなかった、理解できていなかった、と反省をする。



◆次回までの課題：個別の記録を書く(印象的だったことについて記録・思い出せない場合は空白)



第2回 (令和3年10月25日)



◆課題：個別の記録を書く（印象的だったことについて記録・思い出せない場合は空白）

【記録の方法】

- ・メモ帳タイプのノートに記入・日案、日誌に毎日の様子を書く・ノートに毎日、何人か書く
- ・表を作り全員記入できるようにする・「個人案」というものがあるので、そこに書く
- ・日付の下に当日の遊びの内容、気になったことを書く
- ・月ごとに1日の中で印象に残ったことや1日のねらいに対してどうだったかを書き分けた
- ・複数担任なので、2人で書いてみた 等

【記録をとることで見えてきたこと】～意見交流・討議～

- ・同じ子が書けていない、空白が続くことがあった。
- ・同じクラスの担任それぞれで書き、それを共有することで、子どもを見る視点の違いを知ることができた。
- ・マイナス面を書いていることが多かった。肯定的に捉えて書けるようにしたい。
- ・文字にすることで、気になる姿や何に興味を持っているかなど明確になった。そのことで次への支援を考えるきっかけとなった。

指導講師より 「実践記録を書くことで子どもの育ちがスムーズに見えてくる」

- ・空白の多い子には声をかけ「先生は見てくれている」と実感させ自信がもてるようにする。
- ・保育に生かされる記録にしなければいけない→日案、週案の評価・反省に個人が出てくればよい。
- ・子どもの意欲が見られる記録にすることが大切である
「スプーンを持てるようになった」➡「こぼしながらも（スプーンを持って）自分で食べようとしている」
- ・記録をとることで発見があり喜びがある。（乳児は養護の部分が大きい。）
- ・子どもを理解する＝子どもを大事にしている。「支援」は子どもを理解していないとできない。

◆次回までの課題：実践記録を書く「ねらい」は必ず記入する。

第3回 (令和3年11月22日)

- ◆課題：実践記録を書く「ねらい」は必ず記入する
- ◆実践記録を報告する 「ねらい」をたてた背景・振り返って見えてきたこと

指導講師より ～それぞれの報告内容をうけて～

- *未満児の記録の書き方・・・できれば○カ月Aちゃんは、○カ月Bちゃんは、と一人ずつ記録をとることを心がける。
- *集中して遊びに取り組むことはどの年齢も大切であるが、その年齢、発達に応じた「ねらい」がある。形や枠組にとらわれないようにしなければならない。
- *未満児は大人が修正せずに自由に素直な姿が出せるよう、見守りの時間の長さが大切である。
- *「今まであまり経験していない活動だったが、思ったより楽しんでいた」
➡反省として「発達段階に応じてもう少し前からやっておけばよかった」となって欲しい。
- *担任の「ねらい」が明確になっていない実践が多い→あそび(活動)を通してどんな力を付けたいのか
- *担任がたてた「ねらい」に遊びのテーマ(素材)があっているのかを考えることが大切である。
- *「ねらい」は具体的に書いた方がよい（「たのしむ」→「手足を使って」「転がる」「ぶら下がる」等）
- *2歳児の制作・・・出来上がった形ではなく、制作で何を経験させたいのかが大切である。
- *3歳児食育の「ねらい」について『楽しい雰囲気の中で苦手なものも食べてみようとする』
・食事は大切、「食べよう」とする意欲を高めるために雰囲気づくりをする。なので「ねらい」は『意欲をもって食と向き合う雰囲気を作る』ことが大切なのではないか。
- *褒めるのは大事なことだが、隣で褒められている様子を見てプレッシャーに感じたり、褒められたいために苦しんでいる子どももいる。
褒めるのは1対1です（一人ひとりを大切に・みんなの前では褒めない）
叱るのも1対1です（皆の前では叱らない）

個別の指導
が大切

- ◆次回までの課題：実践記録を書く「ねらい」とともに保育を振り返り考察をする。

第4回 (令和3年12月22日)

- ◆次回までの課題：実践記録を書く「ねらい」とともに保育を振り返り考察をする。
- ◆実践記録から報告・意見交流・討議

メンバーの意見・討議内容

～今までの意見交流・討議・助言を受けて～

<自分が変わったところ>

- ・ 0～2歳児、月齢を分けて書くことで個々の育ちを意識してみるようになった。
- ・ 子どもに何を育みたいか、ねらいを具体的に考え、書こうと意識するようになった。
- ・ 「書かないと！」と思いながら書いていたが、意識をして子どもを見るようになり、その後継続する中で視野が広がり、丁寧に見ていこうと思えるきっかけとなった。
- ・ 人に伝えるための記録と振り返るための記録があると感じた。
- ・ 書くことで子どものことがよく見えたり、気付いたりして今まで、見ているようで見ていなかったことに気付いた。
- ・ 「この子はこんなことに興味があるんだ」という肯定的な視点で見るようになった。
- ・ 書くことで子どもの育ちを後から振り返ることができ、支援や次のねらいが明確になった。

<まだわからない、悩んでいるところ>

- ・ 人に伝える、伝わる書き方が難しい。
- ・ 書くときれいにまとまってしまう、課題をどのように捉え、書けばいいのか迷っている。
- ・ 立案したねらいに幅があることに気付いたが、全員が達成できるねらいをどう考えたらいいのか悩む。

- ◆保育の振り返り(自己評価)について～記録することの大切さについて～

『保育所保育指針解説 一部抜粋』63ページ【自己評価における子どもの育ちを捉える視点】

『幼保連携型認定こども園居郁・保育要領解説 一部抜粋』112ページ 内を参考に記録の大切さを考える。

第5回 (令和4年1月24日)

※保育カステップアップ研究会と合同・オンライン開催

◆「今、保育者（もしくは主任）として悩んでいること」グループ討議

主任（保育力フォローアップ研究会）	担任（ステップアップ研究会）
保育者一人ひとりに応じた指導助言が難しい。	子ども主体の保育とは？どのように進めればいいのか。
「主任から」のアドバイスは構えてしまう？ 言われた、と感じないよう納得するように伝えたい。	一斉で行うものと個別で行うもの、どのように支援していけばよいか。
経験のある保育士との考え方が違う時の調整が難しい。	子どものための保育になっているのか。保護者を喜ばすための保育になっていないか悩む。
それぞれの意見のすり合わせ、調整が難しい。	遊びこめる環境設定とは？何から始めればいいのか…
会議など、誰もが自由に意見を言い合える関係づくり。 やりたいことなど積極的な意見を引き出したい。	指導計画の書き方について。ねらいの立て方など。 個人の育ちを踏まえた上でポイントをどこに置くのか。
保育者の仕事を楽しいと感じているか？どんな気持ちで保育をしているのだろう…	考察の書き方。ポイントをどのように絞ればいいのか。
コロナ禍の中、保育者の努力を保護者へも伝えたい。 保育者も安心して気持ちよく保育をしてほしい。	担任間の保育観のすり合わせ。イメージの共有が難しい。 相手への伝え方も難しい。
業務が多岐にわたり時間の余裕がない。「時間」の見つけ方について	保護者対応、一人ひとりにあった対応を心掛けてはいるが、その対応がっているのか悩む。

第5回 (令和4年1月24日) ※保育カステップアップ研究会と合同・オンライン開催

◆「今、保育者（もしくは主任）として悩んでいること



指導講師より ～討議の内容から～

- ①園所全体で話し合っているのか・・・「園所全体で共有」と「園所としての配慮」が必要。
- ②未満児の高月齢・低月齢で分けることについて・・・次の年齢で一緒にするのか園所として考え、カリキュラムを立てる（低月齢児の負担にならないようなカリキュラムを立てていく）
- ③保育は誰のため？
保育＝子ども ☆子どもを大事に思う気持ちは保育士も保護者も一緒である
子どもを大事にする・・・子どもがどう育っていくかを考え、それを保護者に伝える。
保護者と一緒に考えることもできる
- ④中堅保育士の悩み・・・1年2年3年と経験したことを伝える。歩んできた経験を伝える。ありのまま伝え、わからない時は、一緒に主任に聞く。
- ⑤支援の必要な子どもには優しく丁寧に大事に関わる→他児が見て、やさしく接することを知る。
★支援計画を熟していくのではなく、生活の中で長い目で見る（広い意味での支援計画と捉える）
- ⑥「こうしなければならない」と考えると保育士主体になる。「こう変化したね」「こう成長したね」と見る。
- ⑦ねらい達成は「できる」「できない」ではなく、個々の子どもが楽しむ・喜ぶ・夢中になったかを見る。
夢中になっているのは主体的に遊んでいるから・・・心情や意欲や態度の視点から記録する。

メンバーの感想 ～主任との意見交流・討議から～

- ・1人の考えでは行き詰まることがある。職場内とは違ういろんな考えや意見、知らないこともあり勉強になった。
- ・悩みを共有し、教えていただいたことを実践している。
- ・他園所の考え方にも触れ、自園とは違う考えや別の意見が聞けるよい機会になった。
- ・担任へのサポートについて、主任の視点や考え、思いを知る機会となった。

第6回 (令和4年2月10日) ※オンライン開催

～意見交流・討議～ 「学びとなったこと」

【日々の記録を書くことで見えてきたこと】

- 子どもたちの姿、行動、言葉に対して主観的に見ている自分に気付き、客観的に見る意識へ変わった。
- 個人記録を書くことで、子ども理解にすごくつながった。
- 自分自身、子どもをしっかりと見ていると思っていたが、個々の記録を書くことで一人ひとりに目が行き届いていないことに気付いた。
- 個々の記録を取ることで、見ることを意識し、その子の興味のあること苦手なもの等よく分かるようになった。
- 事実を書きだしていくことで子どもの姿から、次のねらいを立てやすくなり、考察も子どもの表情や言葉の細かいところを観察することで見えてくるものがある。
- “子どもの姿を見る”ことが大切…実際の姿を捉え保育者はその子の興味に目を向けて、今、何が育ちつつあるのかに気付いて、その育ちを広げられるように遊びを提供したり気持ちを受け止めたりしていく。
- クラス全体で成長を考えるのではなく、個々で見えていくということを改めて感じた。
- 『意欲的』という言葉をよく使用していたが、子ども一人ひとりの意欲を持つ興味をもつ場面はそれぞれ。一人ひとりの姿を捉えるためにも子どもたちの育ちに合ったねらいとその働きかけを考え実践する。
- 子どもの姿だけでなく「今日の自分の保育、保育所での1日はどうだったか」と自分自身を客観的に見る時間が増えた。

【話し合う、語り合うことの大切さ】

- 複数担任の場合、子どもの姿の共有はしていても、書くことにより、話す機会が増えた。
- 保育者間で共有することで自分自身が見えていなかった姿に気付くことができ、一人ひとりの良さや困り感の見え方も違うので、色々な方向から援助や手立てを考えられ、指導計画や要録等に生かすことができた。

個人記録を取る時間・振り返りの時間が取れない!! (それぞれの工夫から)

- ◆ 1日2, 3人大体10分程度を目安に無理のない程度に、継続して一人ひとりを見る時間を設ける。
- ◆ 小さな付箋にメモを取る ◆ 記録の書けない子どもと遊ぶ ◆ 小さなメモの活用 ◆ 端的に書く

最終回 (令和4年3月10日) ※保育力フォローアップ研究会と合同開催

◆グループ討議

ステップアップ研究会メンバーとフォローアップメンバーが各グループに分かれ、各自のまとめ内容について、意見交流・討議をする。

◆各自報告内容をまとめる「伝わる文章」作成

まとめた内容を報告するために、各自で伝えたいことを簡潔に文章化する。



指導講師より

- ・記録をとると子どもの違う一面が見られたのではないか。
- ・研究会に参加し、保育を考え、自分に問うことを一年続けることで成果や意味が分かったと思う。
保育者主導ではなく、より、本来の子どもの姿に近づけたのではないか。
- ・「意欲的に」や「主体的に」など抽象的・経験的に見ていたことや、思っていたことを疑問に思う。
- ・活動のみを取り上げて子どもを見ていないか？ 黙って工夫している子も意欲的である。

保育者としての経験を重ねると、今までの経験から直感的に見たり応答したりしてしまいがち。
常に専門性をもって問いをもち、振り返ることで子どもの姿がより深く見えてくる。

☆おとな側の感覚で見ずに、子どもの思いに寄り添い、子ども側の感覚に近づくこと！！

「記録は大変」しかし書き方やタイミングなどの工夫をし、書いて欲しい。
そして保育者としての専門性を高め、より子どもの理解を深めてほしい。

子どもとのやりたいことを
一緒に探し、一緒に楽しむ。

子ども一人ひとりを大切に
し、大事にされていること
を子ども自身が感じられる
ように丁寧に関わっていき
たい。

子ども一人ひとりの様子を
観察し書きだしていく中で、
その子にあった援助をし、
丁寧に関わっていくことを
していきたい。

日々の活動を振り返り、
様々な視点で子どもの
姿を捉えていくこと。

一人ひとりの姿に合った対
応や援助を心がけ、個々の
関わりを大事にしていく

子どもが「意欲的に」
なるよう待つ。

今後、保育士として
大切にしたいこと
～意見交流～

子どもの実態を捉え、
楽しい、もっとしたい
と思えるような保育を
考え、実践していく

子ども一人ひとりが自分で
遊びを見つけてじっくりあ
そべるよう、見守りながら、
一人ひとりを見つめていく
ことを大事にしていく。

いろいろな視点から見るよ
うにして子どもたちのした
いこと、夢中になれること
を見つけていく

子どもの成長を長い間
そばで見守ることがで
きるところ

子どもと同じ目線で一緒に楽しむ
ことのできる仕事です！

同じ遊びをしても、反
応が違い、毎日が新鮮。
成長過程を見守ること
ができる、最高の仕事。

子どもの成長が感じられる。

子どもの成長を身近に
感じ、活気、元気(パ
ワー)をもらえる

子どもたちと関わり成
長を感じられる嬉し
さを思うとともに、自
分の学びも多く成長
させてもらっているところ

保育者としての 仕事の魅力 ～意見交流～

同じ活動でも、日々同じ
反応ではなく全く違う反
応が返ってくることが楽
しい。毎日どんな反応か
ワクワクする。

子どもの成長を日々、
間近で感じられる。

子ども、保護者、保育
者と子どもの成長を喜
びあえる。人とのつな
がりが必要で魅力的だ
と思う。

子ども達の目線での発見の面白さを知れ、自身の考えを
柔軟に持つことの大切さを感じる。大人は気付かなかっ
たり考えない方向から、想像しない答えを知れる。いろ
んな可能性を知れる。